

2022年の世界経済の展望

—米国の利上げ開始で世界景気は踊り場へ?—

白川 浩道

目 次

1. グローバル・インフレーションのオーバービュー
2. 米国の景気・物価情勢と金融政策
3. 新興市場国の経済成長について
4. 日本経済を取り巻くリスク

1. グローバル・インフレーションのオーバービュー

最近、様々な国で高いインフレ率が観測されている。そこで、まず、グローバルなインフレーションの状況と、高いインフレ率の下で個人消費が大きく減速し景気が後退的な局面に入るというスタグフレーションのリスクについて話をしたい。グローバル・インフレーションには二つの根拠が考えられる。一つはグリーン・インフレーションだ。先進国・新興国を問わず、二酸化炭素(CO₂)排出量削減が求められる中、原油や天然ガス、石炭などの生産が抑制され、CO₂排出量削減に逆行する動きは取りにくくなっている。本来、原油

価格の上昇に応じて原油生産などは増加するが、今はそのようにはならない状況であり、これがインフレーションの背景の一つといわれている。さらに、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)対応で各国の中央銀行は緩和的な金融政策を続けていることから、商品(コモディティ)相場は投机対象になっている。マーケットでは過剰流動性ともいわれているが、こうした事象もグリーン・インフレーションの背後で起きている。

もう一つは、コロナ・インフレーションだ。新型コロナの最初の流行が始まったころ、新型コロナは物価を下落させる方向に働くデフレーション的なものか、物価を上昇させるインフレ的なものかという質問を多く受けた。当時、私は個人消費



白川 浩道(しらかわ ひろみち)

クレディ・スイス証券 マネージング・ディレクター 取締役兼副会長 経済調査本部長。慶應義塾大学経済学部卒業、米国ワシントン大学経営大学院留学、博士(政策研究)。1983年日本銀行に入行。金融研究所エコノミスト、国際局調査役、金融市場局調査役などを歴任した後、1999年に日銀を退職し、UBS証券チーフ・エコノミスト、2006年4月クレディ・スイス証券入社。マネージング・ディレクター、チーフ・エコノミストを経て、2017年より副会長。2019年6月より現職。1991年から1994年にかけて、経済協力開発機構(OECD) 経済総局エコノミスト。

(本稿は2021年11月25日に日本証券アナリスト協会にて収録し同年12月に動画配信した講演の要旨である。)